

■AI ガバナンスに関する情報提供（2025.4.26 更新）

1. AI Governance Brief

1.1. 文書リンク

- <https://www.isaca.org/resources/ebook/artificial-intelligence-governance-brief>

1.2. 概要

- 本ホワイトペーパー「AI Governance Brief」は、AI の急速な普及に伴い必要とされるガバナンスの視点を、初学者にもわかりやすく解説しています。
- 本ホワイトペーパーは、AI のもたらすメリットとリスクを俯瞰し、組織が AI を導入・活用する際に考慮すべき要素を、アンケート形式のセルフアセスメントを通じて整理しています。特に、AI 導入初期の企業にとって、有益な出発点となる構成が特徴です。
- 主な内容は次のとおりです。
 - ・ AI のメリットとリスクの俯瞰（図表を含む）
 - ・ ガバナンス観点からの検討ポイント（質問形式）
 - ・ ガバナンス体制構築の構成要素（COBIT の参照を含む）
 - ・ 委員会や経営層による責任体制の重要性

1.3. 所感

- 本資料は、AI 利活用の初期段階にある企業にとって、ガバナンスの必要性を理解する上で有益な情報を提供しています。特に、AI リスクへの対応策として提示されているセルフチェック形式の質問群や、AI メリット・リスクの整理は、社内での議論喚起や戦略立案の起点となることが期待されます。
- 一方で、資料全体としては構成や表現に一貫性を欠く部分も見受けられます。たとえば、COBIT との関連について言及はあるものの、具体的なプロセスや事例紹介が少ない点は今後の課題と言えます。
- 総じて、初学者向け資料としての啓発的な価値は高いものの、今後はより体系的な整理と、ガバナンス体制との関連性を明確にすることが望まれます。

1.4. 今後の展望

- 本資料は、AI 導入に伴うガバナンス視点を整理する上で意義ある出発点となります。

今後は、COBIT やその他フレームワークを活用した具体的な実装プロセスへの展開が期待されます。ISACA 国際本部からも、AI ガバナンスに関する詳細なホワイトペーパー等がリリースされる予定です。ISACA 東京支部基準委員会では、これらの動向を注視し、会員の皆様への情報提供を継続してまいります。

担当：基準委員会 渡部、妻川、今本、福田

2. Leveraging COBIT for Effective AI System Governance

2.1. 文書リンク

- <https://www.isaca.org/resources/white-papers/2025/leveraging-cobit-for-effective-ai-system-governance>

2.2. 概要

- 本ホワイトペーパー「Leveraging COBIT for Effective AI System Governance and Management」は、AI システムのガバナンスとマネジメントにおける COBIT フレームワークの有効性を解説しています。
- 本ホワイトペーパーの前半では、AI の戦略的重要性や関連リスク、各種ガイドラインを紹介しながら、AI ガバナンスの重要性を説明しています。後半では、次の 2 点を中心に構成されています。
 - ・ COBIT の各ドメイン (EDM, APO, BAI, DSS, MEA) を AI ライフサイクルに適用する具体的な視点
 - ・ ユースケースを用いた実践的アプローチ

2.3. 所感

- 本ホワイトペーパーは、AI ガバナンスを真正面から取り上げ、AI の活用に伴うリスクと機会の双方に焦点を当てている点で、意義深い資料です。特に評価すべき点は以下のとおりです。
 - ・ 図表 5「AI Risk Categories」では、AI に内在するリスクを 5 つのカテゴリ（倫理的使用、ポリシー・ガバナンス、技術・インフラ、運用・組織、新興・戦略）に分類し、具体的なリスクシナリオも提示しています。
 - ・ ユースケースでは、AI によるカスタマーサービス導入における課題（バイアス問題、規制遵守、パフォーマンス維持）に対し、COBIT 原則を適用する方法を具体的に示しています。

- ・ AI ガバナンスに関する主要な枠組み（OECD 原則、NIST AI RMF、ISO/IEC 42001、EU AI Act 等）も整理されており、AI ガバナンス全体像を把握する上で有用です。
- 一方で、COBIT 自体が情報技術全般を対象とするフレームワークであるため、AI に特化したガイドラインとしてはやや抽象的な印象も残ります。今後は、各フェーズ（設計、開発、導入、運用、監視）ごとに、具体的なガバナンス手段や事例がより豊富に提示されることが望まれます。

2.4. 今後の展望

- COBIT を活用して AI ガバナンスを実施する際は、各組織の特性や目的に応じたカスタマイズと、適切な判断基準・プロセスの設計が不可欠です。ISACA 国際本部では、AI ガバナンスに特化した資格、ガイダンス、ケーススタディ等のリリースが予定されており、ISACA 東京支部基準委員会も、今後の動向を注視しつつ、会員各位への支援活動を積極的に展開してまいります。

担当：基準委員会 小宮、高橋、福田